



VIA HOLDINGS INC.

VIA GROUP
ANNUAL REPORT 2010

株式会社 **ヴィア・ホールディングス**
第74期 事業報告書
2009年4月1日-2010年3月31日

JASDAQ
(証券コード7918)

お客様とともに「喜びと感動」を分かち合う、
それが私たちヴィア・グループの原点です。



ヴィア・グループは、2005年4月にホールディングスに移行し、現在の経営体制を確立いたしました。

外食サービス事業と印刷流通事業を両輪として、堅実かつ大胆に業績を拡大してまいります。

経営理念の「心が響き合う価値の創造」に基づき、「喜びと感動」に満ちた新しい価値を創造するためリノベーションに挑戦し続け、中期経営目標の実現に向けて邁進してまいります。

お客様の变化の方向性を理解し、
「心が響き合う価値の創造」へ向けて邁進します。

2005年4月に純粹持株会社へと移行した当社は、75年の事業実績をもつ印刷流通事業に加え、9年前より外食サービス事業に意欲的に参入し、既存業態の積極出店と新規業態の開発、企業再生をコアとしたM&A戦略などにより業績の拡大を進めてまいりました。その結果、お蔭様で外食サービス事業は現在、当社グループの主要ドメインにまで育てております。

こうしたなか、日本の外食市場は、長引く経済低迷やライフスタイルの多様化などから、1997年をピークに15%強も市場が縮小しています。昨今においても、世界経済の混迷や先行き不透明感から、衣食住遊の様々なシーンで、生活防衛意識が高まってきています。しかし、常に大切なことは、お客様の变化の方向性を理解し、いかにして『新たな価値』を具現化するか。激変と激動の時代にあつて、業態の世代交代が進行する、古くて新しいこの外食市場だからこそ、絶えず自己革新に挑戦する私たちヴィア・グループの成長機会も無限に生まれてくると考えています。

私どもの経営理念は、『心が響き合う価値の創造』です。お客様をはじめ、お取引先様・従業員・社会や地域、そして株主の皆様といった方々に、心のかよい合った新たな価値創造を通じて広く貢献していきたい。そんな思いを経営理念に込めています。新たな価値の創造には、誰もがやってこなかったことに着目し、失敗を恐れず、諦めずに挑戦を続ける情熱が必要です。過去の延長線上には未来に向けた成長はありません。

ヴィア・グループは長期的なビジョンとして、売上高1,500億円、店舗ネットワーク3,000店舗を掲げ、一丸となって持続的な成長と企業価値の向上に取り組み、多くの皆様に支持されるライフスタイル創造型企業として発展していくことを目指してまいります。なにとぞ、一層のご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。



Chairman and Representative Director
Norio Yokokawa

代表取締役会長
横川紀夫

中期経営目標の実現とともに、
“次なる成長に向けた人財集団づくり”を推し進めます。

世の中は、確かな新しい動きを始めています。日常の暮らしにおいては、それぞれの価値観に基づいたライフスタイルをより鮮明にし、日本の社会経済は「高次成熟期」とも言うべき未知のステージに移行しています。したがって、いまある需要の減少や市場の縮小に対応する発想ではなく、お客様にとっての『新たな価値』という需要を創り出していく企業姿勢が何より重要だと考えています。

また一方で、経済環境が厳しい今こそ、収益構造を強くする最高のチャンスと捉え、確実に利益を生み出す体質へと、自らを育て上げることも大切です。それを支えるのは、まぎれもなく私たちの強力な経営資源である人財です。チャレンジを続け、全力を出し続けるなかで人財は育ち、その連続によって、私たちヴィア・グループは、次なる成長を約束する『業界トップの人財集団』になりえると、私は確信しています。

ヴィア・グループは中期経営目標として、2013年3月期に売上高520億円、経常利益30億円にチャレンジします。この目標を達成する基本戦略は、「既存事業のバリューアップによる基礎収益力の向上」「本部機能の集中化による価値競争力の向上」「内部統制の推進によるマネジメント力の向上」の3つです。グループ・ノウハウを体系的に結集するとともに、これからもダイナミックにマネジメントとマーチャンダイジングの改革を進めてまいります。

私どものコアドメインである外食サービス事業は、新規の参入プレイヤーも多く、競争も激しい業界です。しかし、だからこそ人財集団がもつカルチャーやマインド、あるいは知恵や創意工夫などにより、成長スピードに大きく差をつけられる領域でもあります。今後も、社会と地域、そしてお客様の暮らしに貢献し存在感を高めていくことで、持続的な成長を推し進めてまいります。皆様方の一層のご指導とお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



President and Representative Director
Norihiko Ohba

代表取締役社長
大場典彦

ヴィア・グループ49の業態が織りなすハーモニー

1

TOPICS 2009-2010

「扇屋コーポレーション」が 2009年度の飲食業ランキング(日経MJ)、 店舗売上高部門95位に

2010年3月期も扇屋コーポレーションは、ヴィア・グループトップの売上と利益を実現。主力業態の焼き鳥居酒屋「備長扇屋」は、店舗オペレーションのレベルアップに徹底的に取り組みました。その結果、売上を確保するとともにコストを適正にコントロールする力を身につけ、収益力が強化されました。今後も、ヴィア・グループのリーディングカンパニーとして絶えまない技術の研鑽により、モニタリング体制の整備および「専門性、健康、手作り感」をキーとした商品政策により、お値打ちを実現し業績拡大を目指してまいります。



2

TOPICS 2009-2010

「NBK」が 「忍者京都迷宮殿」をオープン

知名度の高い「北の家族」業態を擁し、ヴィア・グループ唯一のエンターテインメントテーマレストラン業態を展開しているNBK。2009年9月、すでに赤坂とニューヨークで営業をしている「忍者」をテーマにしたレストランを、京都において「忍者京都迷宮殿」としてオープンさせました。「忍者京都迷宮殿」は、創作膳レストラン、スイーツビュッフェ、迷路アトラクションの3つで構成され、「もてなしの秘術」を現代に再現し、お客様を驚きと感動の世界へ誘います。今後も、エンターテインメントテーマレストラン業態の充実とブラッシュアップを行ってまいります。



NBK

3 TOPICS 2009-2010

「一源」が
「戸田公園店」を2社4業態へ変更し、
売上が2倍に

総合型居酒屋「食彩厨房 いちげん」を主力業態として、埼玉を中心に関東圏にて店舗展開している一源。2009年12月に「一源 戸田公園店」において、1階を新業態の「申げん」と「龍げん」および「備長扇屋」（扇屋コーポレーション運営）に、2階を「いちげん」に業態変更し、同店におけるヴィア・グループ売上が前年比較2倍になりました。今後もヴィア・グループ内事業会社を横断した業態ミックスにチャレンジしてまいります。

4 TOPICS 2009-2010

「ぼちぼち」と
「北海道FB」を設立

大阪下町の味 お好み焼き「ぼちぼち」を運営する会社として「ぼちぼち」を、ヴィア・グループの北海道地区における店舗を運営する会社として「北海道FB」を設立しました。今後は業態および地域の特性にフォーカスすることによりコンセプトを明確化し、従来の手法を果敢に進化させ、売上の拡大と収益体質の強化を実現することにより、ヴィア・グループの収益力向上へ貢献することが期待されます。

5 TOPICS 2009-2010

株主優待制度の充実により
株主様数が約2倍に

2010年3月期より、ヴィア・グループの事業へのご理解を一層深めていただくとともに、株式投資の魅力を高めていただくために、優待券配布対象の最低持株数を引き下げ、1000株を上限に持株数に応じた優待券の配布を実施。また、お近くにヴィア・グループ店舗が無いなど優待券のご利用が難しい株主様のために、優待券と交換できる商品（約30アイテム）をご用意するサービスを開始しました。その結果、株主様数がこの1年間で628名から1,299名と約2倍の大幅増となりました。



いちげん

ぼちぼち

BOCHI BOCHI INC.

HFB

HOKKAIDO FB INC.

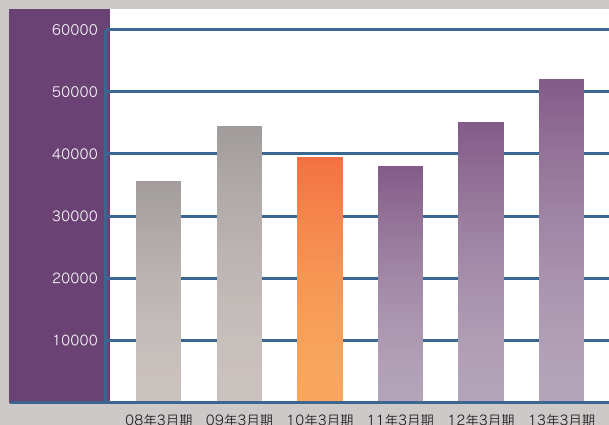


VIA GROUP

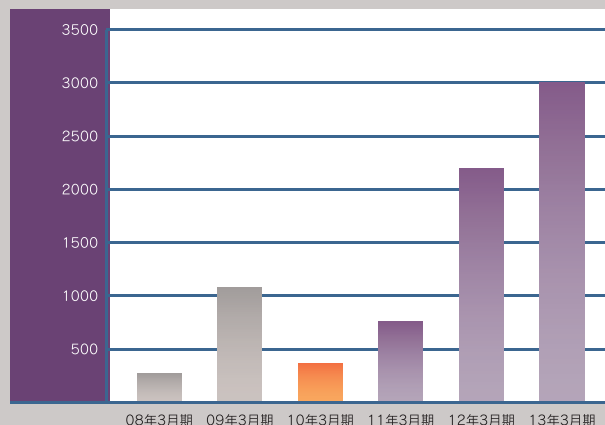
事業ハイライト(実績と目標)

2010年3月期連結決算は、
売上高**398億2,000万円**(前期比10.2%減)、
経常利益**3億6,800万円**(前期比65.8%減)となりました。
2011年3月期は、売上高**380億円**、
経常利益**7億5,000万円**を目指します。

売上高



経常利益



業績の状況

ヴィア・グループの中核事業である外食サービス事業においては、新型インフルエンザの影響や全国的な消費需要の低迷により、一部の高単価業態やインショップ業態等で売上高の減少が見られました。

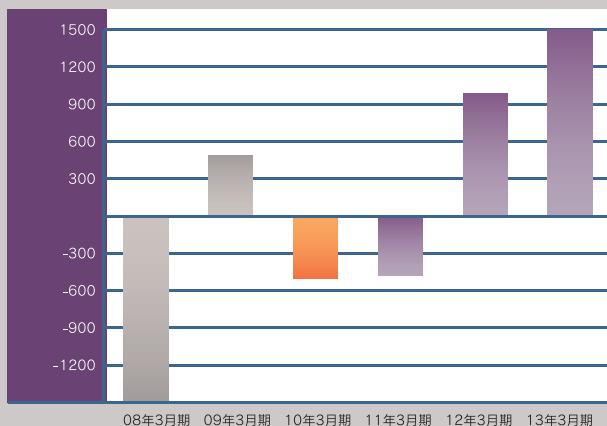
こうした中で「既存事業のバリューアップによる基礎収益力の向上」を中心に積極的な施策を導入するとともに、低収益店舗の業態転換等、機動的な施策を実施してまいりました。とりわけ既存店の収益力向上では、店舗モニター制によるサービスのレベルアップや地域別メニューの導入、メニュー開発サイクルの大幅な短縮等による差別化を図り、業界傾向である低価格路線とは一線を画した施策導入により、収益体質の強化を進めてまいりました。加えて、商品部門においては購買委員会でのタイムリーな食材情報の共有化や、仕入機能と商品開発機能の連携を強化することで原価の低減の促進を図るとともに、マーケットにきめ細かく対応した商品の導入を実施してまいりました。

また、印刷流通事業においては、出版業界をはじめ主要顧客を取り巻く環境はより一層の厳しさを増しており、一時的に大幅な収益悪化を避ける

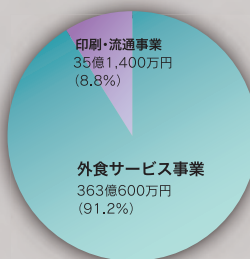
ことができませんでした。その一方で安定的な収益体質の確保に向け、取引先の与信管理を強化するとともに、一部事業の撤退を図り、印刷事業への集中とデジタル事業の強化を進め、安定的な収益力の向上を確実に行ってまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は39,820百万円(前年同期比10.2%減)、営業利益は612百万円(前年同期比44.4%減)、経常利益368百万円(前年同期比65.8%減)、当期純損失は537百万円(前年同期比1,025百万円減少)となりました。

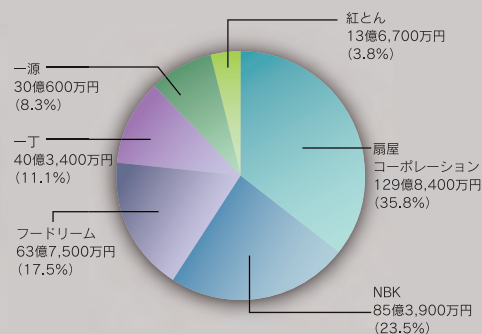
当期純利益



セグメント別売上比率



外食サービス事業の会社別売上比率



次期の見通し

今後のわが国経済の見通しは、景気の底打ち感が見られ、緩やかな景気拡張が期待される向きはあるものの、本格的な消費マインドの拡大は今後も進まず、消費意欲は依然として低位で推移するものと予想されます。

こうした中、ヴィア・グループは経営資源を外食サービスに集中し、景気低迷期における収益体質の強化をさらに進め、将来の景気回復局面に最大のパフォーマンスを発揮できる体制を構築してまいります。投資については、引き続き営業キャッシュフロー内での投資金額枠を設定するとともに、投資の効果と効率についてプライオリティ管理をしてまいります。

中期的な基本戦略のひとつである「本部機能の集中化による価値競争力の向上」については、各社の事務サービス部門の統合により業務処理の高度化と業務改善によるコスト低減を継続的に進めるとともに、基幹システムを中心とした情報システムの全面的な入れ替えを進め、店舗の営業支援機能を強化することで、競争力

を高めてまいります。

印刷流通事業については、与信調査の機能強化により取り立て不能債権の発生を極小とする組織体制の整備が完了しているとともに、2010年3月期において基礎的な収益体質への改善が図られているため、安定的な収益の確保が可能と予想されます。一方で、2011年3月期においては会計基準の変更にもなう資産除去債務に対応する資産の過去分の一括償却、及び店舗固定資産の減損等を見積もることにより、特別損失950百万円を見込んでいます。また、2011年3月期以降の減価償却においても、将来にわたって資産除去債務に対応する資産の償却分が計上されることとなります。なお、いずれもキャッシュアウトを伴うものではありません。

以上の経営施策により、2011年3月期の連結業績見通しについては、売上高38,000百万円(当期比4.6%減)、営業利益1,000百万円(当期比63.3%増)、経常利益750百万円(当期比103.3%増)、当期純損失500百万円(当期比7.0%減)を見込んでいます。

連結財政状態

総資産 29,575,000,000

295.7億円

純資産 7,220,000,000

72.2億円

自己資本比率 16.2

16.2%

確実な利益成長による安定した更なる成長を目指して

私たちヴィア・グループはこの中期経営計画の3年間で「ヴィア・グループの新たな飛躍に向けた足場固めと成長期間」とし、次の3つの基本戦略を遂行し、確実な利益成長による中長期的に安定したさらなる成長を実現してまいります。

1. 既存事業のバリューアップによる基礎収益力の向上

既存事業のバリューアップでは、経営資源を外食サービスに集中し、景気低迷期における収益体質の強化をさらに進め、来る景気回復局面に最大のパフォーマンスを発揮できる体制を構築してまいります。新規出店を中心とした投資については、営業キャッシュフロー内での投資枠を設定した上で出店立地を厳選した出店を行い、財務改善の視点からも負債の圧縮といった財務の健全性の実現を目指します。また、(株)再生プロジェクトによる店舗再生、(株)ほちほちの業態集中および(株)北海道FBの地域集中といった戦略的な組織再編などにより、ヴィア・グループのノウハウを結集し、マネジメントとマーチャンダイジングの両輪で改革を進めて

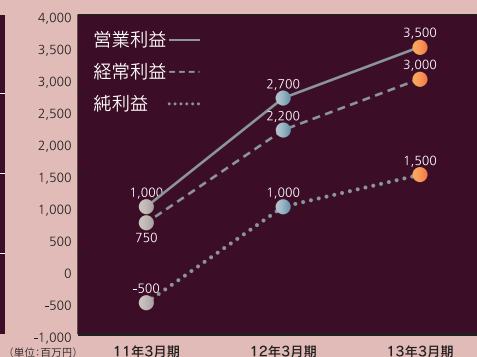
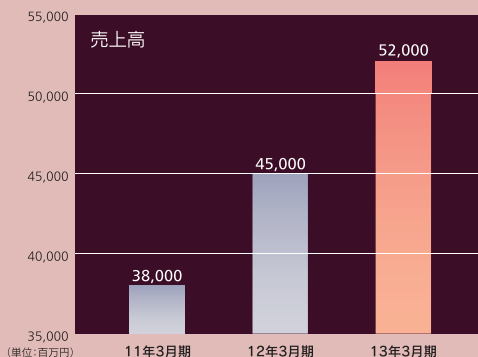
まいります。さらにマーチャンダイジングシステムづくりにおいては、永遠のテーマである安全と安心を確保し、より良いものをより安く全世界から調達を行ってまいります。

また、印刷流通事業については、印刷事業の原点に立ち返り、“再編と再生”を実施し収益構造の変革を確実に進めてまいります。グループの発展・拡大に欠かせない人財の確保・育成については、時代に即した人事処遇制度の導入や労働条件の改善を継続的に進め、従業員の生活向上のための施策をより一層強化してまいります。これらの取り組みにより、グループ全体の収益性を飛躍的に高め、企業価値の向上を図ってまいります。



数値目標

中期経営計画では、3年後の2013年3月期に売上高520億円(当期比30.6%増)、営業利益35億円(当期比471.4%増)、経常利益30億円(当期比713.3%増)、当期純利益15億円(当期比20億3,700万円増加)の達成を目指します。



2. 本部機能の集中化による価値競争力の向上

業務処理の高度化と組織体制のコンパクト化を企図し、当社および各子会社の事務サービス部門を統合することで、業務の抜本的な改善によるコスト低減を進めてまいります。

情報システムについても、営業支援機能を強化し、店舗の収益改善を実現するための基幹システムの導入や、グループでの資金効率の向上を企図したキャッシュマネジメントシステムの活用等、本部機能の効率化と高度化を進めてまいります。

また、商品・購買機能についても、商品開発は各社の自由度を残してメニューの同質化を防ぐとともに、共同購買プロジェクトや食品衛生委員会といったグループ横断の機能を推進し、食の安全・安心を確保

しながら、グループメリットを生かした調達を進めることでコストの低減を進めてまいります。



3. 内部統制の推進によるマネジメント力の向上

偽りのない情報の公開や安心・安全の確保、環境保護への配慮など、確固とした企業倫理を確立し、社会の一員としての責務を果たしてまいります。

また、内部統制の仕組みづくりは、コーポレートガバナンス体制の強化であるとともに、マネジメント力そのものの向上と位置づけ、そのための内部統制の強化に積極的に取り組み、オープンで公正な企業カルチャーの構築を目指してまいります。



「感動を糧に」、「常に挑戦し続け」、「お客様の喜び」を目指して、
 ヴィア・グループは日々変化し続けます。



株式会社 ヴィア・ホールディングス

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6801
 設立 1948年2月26日
 代表者 代表取締役会長 横川紀夫
 代表取締役社長 大場典彦



株式会社 紅とん

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-2291
 設立 2003年10月22日
 代表者 代表取締役社長 白山良則
 事業内容 新鮮豚の炭焼専門店「日本橋紅とん」の展開



株式会社 扇屋コーポレーション

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6926
 設立 2001年7月2日
 代表者 代表取締役社長 大場典彦
 事業内容 焼き鳥居酒屋「備長扇屋」、「本陣串や」の展開



株式会社 ぼちぼち

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6890
 設立 2010年2月17日
 代表者 代表取締役社長 大場典彦
 事業内容 大阪下町の味 お好み焼き「ぼちぼち」の展開



株式会社 NBK

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6813
 設立 2006年1月10日
 代表者 代表取締役社長 尾曲辰朗
 事業内容 和食居酒屋「北の家族」、
 エンターテイメントテーマレストランの展開



株式会社 北海道FB

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6819(株)一丁内)
 設立 2010年2月17日
 代表者 代表取締役社長 亀田直樹
 事業内容 北海道地区における刺身居酒屋「うや一丁」と
 「本陣串や」の展開
 北海道食材の企画・開発・販売等



株式会社 フードリーム

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6832
 設立 2001年7月1日
 代表者 代表取締役社長 鈴木紀孝
 代表取締役専務 小田島征男
 事業内容 SC内を中心とした外食店舗の展開
 (オープン亭・双麟亭・カプチャーナ 他)



株式会社 暁印刷

所在地 東京都文京区関口1-44-4
 TEL.03-3268-3155
 設立 2005年4月1日
 代表者 代表取締役社長 三甲野隆優
 事業内容 書籍・雑誌印刷、商業印刷、
 デジタル事業(電子書籍等)、
 物販流通資材卸売



株式会社 一丁

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6812
 設立 1978年12月14日
 代表者 代表取締役社長 阪本保廣
 事業内容 刺身居酒屋「うや一丁」の展開



株式会社 再生プロジェクト

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-6835
 設立 2009年4月1日
 代表者 代表取締役社長 廣瀬雅孝
 事業内容 低収益店舗・業態の再生



株式会社 一源

所在地 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
 TEL.03-5155-3239
 設立 1970年6月1日
 代表者 代表取締役社長 佐伯浩一
 事業内容 総合型居酒屋「食彩厨房 いちげん」の展開

傘下10社による中期経営計画の継続

私たちヴィア・グループは、

◆既存事業のバリューアップによる基礎収益力の向上

◆本部機能の集中化による価値競争力の向上

◆内部統制の推進によるマネジメント力の向上

を基本戦略とし、収益体質の強化と企業価値の向上を図ってまいります。

OHGIYA CORPORATION INC.



株式会社 扇屋コーポレーション

代表取締役社長 大場典彦

店舗営業力と商品価値の強化による客単価向上への挑戦

株式会社 扇屋コーポレーションは、2010年3月31日現在、焼き鳥居酒屋「備長扇屋」を主力に、全国に354店舗（直営店271店舗、FC店83店舗）を展開し、2009年度の飲食ランキング（日経MJ）では、店舗売上高部門で全国95位の業績をあげることができました。

2011年3月期は、“1000店舗に向けての基盤づくり”の2年目となる年であり、本来「備長扇屋」がもっていた“強み”を再確認するとともに、それを持続可能なものとするための体系化に取り組むべき年と位置づけています。

まず私たちは、焼師・真心師制度など必要な技術を明確にすることにより店舗営業力

の一層の強化を実現したいと考えています。また、営業力強化の進捗とお客様の評価を確認できるよう店舗モニタリング体制の整備に取り組んでまいります。

商品政策としては、「専門性、健康、手作り感」をキーワードに、創作串（野菜巻き串など）の導入、希少部位（鶏）の集荷体制および店仕込み商品の強化により、扇屋ならではの商品を拡充し、売上向上を目指します。

外食業界は非常に厳しい状況ではありますが、価格競争に組みすことなく、これらの政策により、客単価の向上による売上拡大に挑戦してまいります。

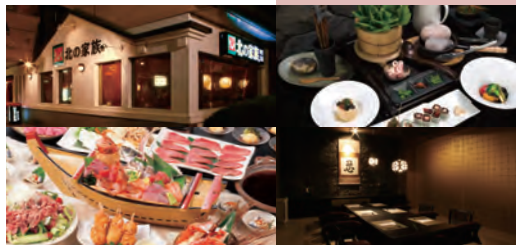


NBK INC.

株式会社 NBK

代表取締役社長 尾曲辰朗

NBK



意識を変え、行動を変え、状態を変え、そして数値を変える

株式会社 NBKは、関東圏をはじめ主要な大都市に、和食居酒屋「北の家族」や、中世ヨーロッパの牢屋敷をテーマにしたエンターテインメントテーマレストラン「ザ・ロックアップ」等、現在14業態の飲食店舗を展開しています。

主力の「北の家族」においては、店舗ごとに顧客のニーズに合わせた商品開発を行い、クオリティの高い商品とサービスを提供しています。

エンターテインメントテーマレストラン業態

では、2009年9月に京都において忍者をテーマにした「忍者京都迷宮殿」をオープン、10月には池袋において未来の宇宙監獄をイメージした「LOCKUP 2999」をリニューアルオープンさせ、業態充実と顧客満足度の向上を推し進めています。

今後は店舗ごとに個別の特性に応じたブラッシュアップを行うとともに、社会環境の変化に伴う顧客ニーズの変化に対する感度を徹底的に高くし、リピート力の強化を進めてまいります。

FOODREAM INC.

株式会社 フードリーム

代表取締役社長 鈴木紀孝


Foodream



知恵ある行動で改革の実現へ

株式会社 フードリームは、大手スーパー・駅ビル・ショッピングセンターなど、飲食店の集積地を主要な事業拠点として、洋食レストランの“オープン亭”、茹で上げパスタをお手ごろな価格で提供する“パスタモーレ”、中華レストランの“双語亭”、本格的イタリアンレストラン“ベッラベッラ”を主力に、展開しています。

既存業態では、“収益力・組織力・技術力・商品力”のブラッシュアップをモットーに、サービス・調理技術の向上に主眼をおいた強化施策を推進し、お客様の満足度向上に努めています。また、「感謝と感動」をキーワード

として人財育成強化にも取り組みます。

新体制となった今期は、心機一転、全社一丸となり、“知恵ある行動”で改革の実現を果たし、収益構造・収益力の強化、顧客への新たな付加価値の提案を行い、“強い企業への基盤づくり”を短期間で進めてまいります。

ICCHO INC.



ICCHO INC.

株式会社 一丁

代表取締役社長 阪本保廣

新しい価値を提供し、お客様の満足度を高める

株式会社 一丁は、北海道を主として各地の港から旬と鮮度をテーマに海の幸を取り揃え、刺身居酒屋「うおや一丁」を展開しています。直近では、市場買いメニューの充実に加え、仙台において「地産地消」商品を導入、また魚を主力とした「手作り弁当」の販売による新たなマーケットの開拓等、お客様に「新しい価値」を提供しています。

この「新しい価値の提供」が、2011年3月期の方針でありキーワードです。商品のみならず、販売方法にも「新しい価値」を追求し、居酒屋

特有の活気と楽しさあふれる営業を目指して、お客様の満足度を高めてまいります。

私たち一丁は、「価値のある一丁」を目指し、「行くなら一丁」と言われるような、お客様にとってなくてはならない店づくりを推し進めてまいります。



ICHIGEN INC.

いちげん

株式会社 一源

代表取締役社長 佐伯浩一

一源ブランドのイノベーション

株式会社 一源は、総合型居酒屋「食彩厨房 いちげん」を主力として、埼玉・千葉・東京を中心に31店舗を展開しています。

2010年3月期は、リニューアルや業態転換を進め、目標の予算を上回る利益を確保することができました。

また、新業態の開発にも取り組み、お一人様でも気軽に使える「中華食堂 龍げん」「大衆酒場 串げん」をオープンしました。

2011年3月期は“一源ブランドのイノベーション”をスローガンとし、人財の開発・育成を軸に据えて、商品・サービスにおける表現力の強化に励んでまいります。



BENITON INC.



株式会社 紅とん

代表取締役社長 白山良則

地力をつけて、大きく成長

株式会社 紅とんは2010年3月31日現在、新鮮和豚の炭焼専門店「日本橋 紅とん」を直営21店、フランチャイズ8店、炎の鉄板焼き「ソウル大門ホルモン」を直営3店展開しています。

2010年3月期は「私のお客様を迎えられる店舗をつくらう」をキーワードに、既存店のブラッシュアップに取り組みました。また、3店の「日本橋 紅とん」、1店の「ソウル大門ホルモン」の出店も果たしました。その結果、売上高・利益ともに、前期を上回ることができました。

2011年3月期の位置付けは、新しい中期目標「2015年3月期100店舗」の実現へ向けてのスタートの年です。しっかり地力をつけて、成長の土台づくりに取り組んでまいります。企業は人の組織ですから、その構成員である社員一人一人の成長なくして企業の成長もありません。社員一人一人が自ら学び地力をつけ、自ら変化し、自ら行動できるよう大きく成長してまいります。

また、新規出店についても慎重かつ大胆に出店数を増やしてまいります。

BOCHI BOCHI INC.



BOCHI BOCHI INC.



株式会社 ほちほち

代表取締役社長 大場典彦

100店舗体制に向けて変革に挑戦

株式会社 ほちほちは、大阪下町の味お好み焼き「ほちほち」を展開しています。2011年3月期は、「100店舗に向けての基盤づくり」となる年であり「ほちほち」がもっている業態としての可能性を開花させるために、現状の仕組みを改良・改善し続けることが必要であると考えています。

具体的には、主力商品「ほちほち焼き」を最適なタイミングに最高の状態で提供するための技術を、焼師制度の導入および必要技術の明確化により確立したいと考えています。また、行動指針の明文化により「ほちほち」らしい企業文化の醸成と店舗営業力

の強化に取り組んでまいります。

商品政策については、駅前立地と郊外立地で異なったメニュー戦略を打ち出したいと考えています。駅前立地は、食事動機に合わせるだけでなく、より酒類の飲み動機に合わせるよう「鉄板焼き」メニューの拡充に努めます。郊外立地では、ファミリーの食事の場として、より楽しんでいただけるメニュー・店舗づくりへと改善してまいります。また、主力商品であるお好み焼きの品質の向上と食品の安全性の確保についても、より強化して取り組むことといたします。厳しい環境下ではありますが、従来やり方を変化させることに果敢に取り組み、変革による収益拡大に挑んでまいります。

HOKKAIDO FB INC.

株式会社 北海道FB

代表取締役社長 亀田直樹



激変は飛躍へのチャンス～目指せ地域ナンバーワン

株式会社 北海道FBは、2010年2月に新設され、4月にヴィア・グループが北海道地区で展開する刺身居酒屋「うおや一丁」と「本陣串や」の運営を承継しました。

これにより地域のニーズとウォンツに即応したマネジメントが可能となり、マーケットにおいてより大きな競争力をもつことができるようになりました。さらに、人気の高い北海道食材の企画・開発・販売等の業務を行い、総合的なフードビジネスを展開する可能性を広げてまいります。

2011年3月期は、今まで思いもよらなかったサイクルで劇的に変化し続ける経済的環境の中で、これを飛躍へのチャンスと認識し、地域の皆様に絶大なるご支持をいただけるよう「ナンバーワン」を目指します。

北海道におけるフードビジネスの新たな創造に向けて、前例主義にとらわれず果敢に挑戦し、全員一緒に協働の汗を流しながら、希望に満ちた会社づくりに邁進してまいります。

AKATSUKI PRINTING INC.

株式会社 暁印刷

代表取締役社長 三甲野隆優



変えよう会社 変わろう私

株式会社 暁印刷は、長年にわたり展開してきた書籍・雑誌印刷や商業印刷を中心に、自社工場および国内外の協力会社において組版から製本まで一貫生産体制のもと、高品質な商品を低コストかつ迅速にお届けすることを強みとしています。

また、電子書籍など早期から着手してきたデジタル関連事業も収益を支える大きな柱として成長し、海外市場も視野に入れた事業拡大を着々と進めています。

出版業界では、書籍から電子ブックへの移行などが急速に進み、印刷市場には大きな変化のうねりが押し寄せています。急速な

技術進歩によってリーディング・デバイスの低価格化が進み、電子ペーパーの普及が急速に進行していく一方で、紙媒体の印刷出版物は確実に減少していき、出版・印刷の市場環境は激変するものと予想されています。

こうした市場環境の変化に対応するには、自らの体質改善を図らねばなりません。2011年3月期の暁印刷は、一人一人が変化のスピードに対応し、他社に先駆けて企業体質改善を実現してまいります。

より高品質な商品をお届けしてお客様にご満足いただき、信頼関係をさらに強固なものとしながら、ワンソース・マルチユースが可能な当社本来の強みを活かして、堅実かつ積極的に事業展開を進めてまいります。

SAISEI PROJECT INC



SAISEI PROJECT INC.
VIA GROUP

株式会社 再生プロジェクト

代表取締役社長 廣瀬雅孝

ヴィア・グループを元気にする、横断的企画プロジェクト会社

株式会社 再生プロジェクトは、グループ各社の低収益店舗を再生し、“ヴィア・グループを元気にする”を目的として、2009年4月に発足しました。

再生とは、一般的なコスト削減を重視したものではなく、コンセプトメイク(コンセプトを強くし、お客様に喜んでいただき、お客様が増えていくような政策を、企画・実施していくこと)による再生です。

近年の急激な社会環境の変化に伴い、お客様の意識・行動は大きく変わり続け、各業態に

おいてお客様のニーズとのギャップが開きつつあります。これに対応すべく、2010年2月より新体制とし、業態企画・商品企画に特化した機能会社により、よりフレキシブルな企画立案・実施が可能な体制としました。

また、グループ内の横断的なプロジェクト実施により、各社の持つノウハウの共有化・組織の活性化・マーケットに即した業態展開が可能となり、今後のヴィア・グループの発展をよりダイナミックでスピーディーなものに進化させてまいります。





7.九州・中国・四国 33 店舗

- 岡山県 備長扇屋(3) 合計(3)
- 広島県 備長扇屋(3) 北の家族(1) 本陣串や(1) 合計(5)
- 山口県 備長扇屋(1) 合計(1)
- 徳島県 備長扇屋(5) 合計(5)
- 香川県 備長扇屋(8) 合計(8)
- 愛媛県 備長扇屋(4) 合計(4)
- 高知県 備長扇屋(2) やきとりの八扇(1) 合計(3)
- 福岡県 備長扇屋(2) 本陣串や(1) だんらん亭(1) 合計(4)

6.近畿 84 店舗

- 滋賀県 備長扇屋(4) 合計(4)
- 京都府 備長扇屋(3) オープン亭(1) 遊色RAKUZA(1) パスタモーレ(1) 忍者京都迷宮殿(2) 合計(8)
- 大阪府 備長扇屋(29) 北の家族(9) オープン亭(1) 本陣串や(2) ザ・ロックアップ(1) 手羽一郎(3) やきとりの八扇(2) 合計(47)
- 兵庫県 備長扇屋(8) 北の家族(1) やきとりの八扇(1) ザ・ロックアップ(1) アラビアンロック(1) 遊色RAKUZA(1) イルパサール(1) 合計(14)
- 奈良県 備長扇屋(8) 合計(8)
- 和歌山県 備長扇屋(3) 合計(3)

5.北信越 33 店舗

- 新潟県 備長扇屋(6) 北の家族(1) オープン亭(1) 合計(8)
- 富山県 備長扇屋(4) オープン亭(2) 合計(6)
- 石川県 備長扇屋(3) 双鶴亭(2) 合計(5)
- 福井県 やきとりの八扇(1) 合計(1)
- 長野県 備長扇屋(10) オープン亭(1) 双鶴亭(1) カプチャーナ(1) 合計(13)

1.北海道 10 店舗

- 北海道 うおや一丁(4) 本陣串や(6) 合計(10)

2.東北 28 店舗

- 青森県 オープン亭(1) 合計(1)
- 岩手県 双鶴亭(1) カプチャーナ(1) 合計(2)
- 宮城県 備長扇屋(4) 北の家族(2) うおや一丁(2) やきとりの八扇(1) 双鶴亭(2) 手羽一郎(1) 八宝家(1) 合計(13)
- 秋田県 オープン亭(1) 合計(1)
- 山形県 備長扇屋(2) 合計(2)
- 福島県 備長扇屋(7) 双鶴亭(1) らーめん萬亭(1) 合計(9)

8.海外 3 店舗

- うおや一丁(3) 合計(3)

4.東海 108 店舗

- 岐阜県 備長扇屋(15) 合計(15)
- 静岡県 備長扇屋(21) 双鶴亭(1) オープン亭(1) 合計(23)
- 愛知県 備長扇屋(55) 北の家族(1) オープン亭(2) カプチャーナ(1) らーめん萬亭(1) やきとりの八扇(2) パドワイザーカーニバル(1) 合計(63)
- 三重県 備長扇屋(6) オープン亭(1) 合計(7)

3.関東 312 店舗

- 東京都 備長扇屋(28) 北の家族(11) オープン亭(4) 日本橋横丁(2) 日本橋 紅とん(29) ぼちぼち(6) うおや一丁(8) 本陣串や(2) 双鶴亭(2) カプチャーナ(1) いちげん(3) ザ・ロックアップ(3) アラビアンロック(2) 手羽一郎(1) BELLA BELLA(2) シェーンズバーグ(2) ペッラペーラ(2) やきとりの八扇(2) 遊色RAKUZA(1) ソウル大門ホルモン(3) ミステリアス(2) アジアドエクッション(1) オーシャングリルトウキョウ(1) 旬彩庵(1) 菜豚(1) ノリータ(1) 元氣力発電(1) パドワイザーカーニバル(1) ビバリー(1) 合計(124)
- 神奈川県 備長扇屋(18) オープン亭(4) 日本橋 紅とん(2) ぼちぼち(8) うおや一丁(4) 本陣串や(2) 双鶴亭(2) シェーンズバーグ(1) ペッラペーラ(1) パスタモーレ(1) 合計(45)
- 山梨県 備長扇屋(3) オープン亭(1) 双鶴亭(1) 双開亭(1) 合計(6)
- 茨城県 備長扇屋(6) 双鶴亭(1) 合計(7)
- 栃木県 備長扇屋(6) 双鶴亭(1) 合計(7)
- 群馬県 備長扇屋(6) BELLA BELLA(1) やきとりの八扇(1) 合計(8)
- 埼玉県 備長扇屋(22) 北の家族(3) オープン亭(5) ぼちぼち(7) うおや一丁(1) 双鶴亭(1) 一源(4) カプチャーナ(2) いちげん(8) ザ・ロックアップ(1) アラビアンロック(1) とりげん(3) らーめん萬亭(1) パドワイザーカーニバル(1) 双開亭(1) 魚々菜(2) 韓国ハッピーズ食堂(1) 串げん(3) 龍げん(2) 八げん(1) China Fan(1) だんらん亭(1) チャンバラ亭(1) 合計(73)
- 千葉県 備長扇屋(17) 北の家族(2) オープン亭(4) ぼちぼち(4) うおや一丁(1) 本陣串や(3) 双鶴亭(2) 一源(2) カプチャーナ(1) いちげん(2) 八宝家(1) カフェモアニ(1) 四季菜々(1) トレドの森(1) 合計(42)

■ 未出店地区

備長扇屋	322店
北の家族	31店
日本橋 紅とん	31店
オープン亭	30店
ぼちぼち	25店
うおや一丁	23店
双鶴亭	18店
本陣串や	17店
いちげん	13店
やきとりの八扇	12店
その他	89店
計	611店舗

2010年5月31日現在

※1 投資と資本の消去に伴う連結上の、のれんは10年、事業譲受に伴うのれんは、5年で償却しております。

※2 ストックオプションの付与により計上されております。

※3 ㈱NBKの資本のうち、当社以外の出資分(優先株式)であります。

連結貸借対照表 単位:百万円

資産の部		
科 目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
流動資産	4,654	3,949
現金及び預金	1,265	922
受取手形及び売掛金	2,117	1,336
有価証券	23	—
たな卸資産	334	356
繰延税金資産	265	188
その他	848	1,183
貸倒引当金	△ 199	△ 37
固定資産	26,126	25,625
有形固定資産	15,396	15,235
建物・構築物	10,735	10,445
機械装置・運搬具	657	659
工具器具備品	1,105	906
リース資産	277	530
土地	2,569	2,500
建設仮勘定	51	192
無形固定資産	3,560	2,665
のれん ※1	2,783	2,194
その他	777	470
投資その他の資産	7,168	7,724
投資有価証券	495	1,169
長期貸付金	561	498
敷金・保証金	4,817	4,577
繰延税金資産	1,169	1,293
その他	168	356
貸倒引当金	△ 43	△ 170
繰延資産	2	0
資産合計	30,783	29,575

負債の部		
科 目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
流動負債	13,019	12,382
支払手形及び買掛金	2,836	2,554
短期借入金	7,225	7,329
未払金	690	697
未払費用	882	851
未払法人税等	205	91
賞与引当金	304	210
その他	875	647
固定資産	9,927	9,976
社債	60	40
長期借入金	8,512	8,253
その他	1,355	1,683
負債合計	22,947	22,358

純資産の部		
科 目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
株主資本	5,430	4,797
資本金	2,739	2,752
資本剰余金	2,742	2,754
利益剰余金	△ 48	△ 707
自己株式	△ 1	△ 1
評価・換算差額等	△ 77	△ 78
その他有価証券評価差額金	△ 77	△ 78
新株予約権 ※2	83	97
少数株主持分 ※3	2,400	2,400
純資産合計	7,836	7,216
負債純資産合計	30,783	29,575

連結損益計算書 単位:百万円

科 目	前期	当期
	2009年3月31日	2010年3月31日
売上高	44,346	39,820
売上原価	16,714	14,097
売上総利益	27,632	25,723
販売費及び一般管理費	26,529	25,110
営業利益	1,102	612
営業外収益	380	135
営業外費用	404	379
経常利益	1,078	368
特別利益	194	16
特別損失	530	784
税金等調整前当期純利益	741	△ 398
法人税、住民税及び事業税	375	185
法人税等調整額	△ 122	△ 46
当期純利益	488	△ 537

連結キャッシュ・フロー計算書 単位:百万円

科 目	前期	当期
	2009年3月31日	2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,890	1,636
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,055	△ 1,633
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,261	△ 344
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	-
現金及び現金同等物の増減額(△減)	△ 426	△ 342
現金及び現金同等物の期首残高	1,691	1,265
現金及び現金同等物の期末残高	1,265	922

連結株主資本等変動計算書 2009年4月1日～2010年3月31日 単位:百万円

科 目	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
2009年3月31日 残高	2,739	2,742	△ 48	△ 1	5,430	△ 77	83	2,400	7,836
当期変動額									
新株の発行	12	12			25				25
剰余金の配当			△ 121		△ 121				△ 121
当期純利益			△ 537		△ 537				△ 537
株主資本以外の項目の当期変動額						△ 0	14	-	13
当期変動額合計	12	12	△ 658	-	△ 633	△ 0	14	-	△ 619
2010年3月31日 残高	2,752	2,754	△ 707	△ 1	4,797	△ 78	97	2,400	7,216

※1 ストックオプションの付与により計上されております。

単体貸借対照表 単位:百万円

資産の部		
科目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
流動資産	1,177	2,638
現金及び預金	464	349
売掛金	78	65
有価証券	23	—
前払費用	12	17
関係会社貸付金	—	1,789
未収入金	491	202
立替金	35	43
繰延税金資産	31	4
その他	40	166
固定資産	15,806	15,741
有形固定資産	2,324	2,445
建物・構築物	848	820
工具器具備品	14	41
リース資産	—	10
土地	1,448	1,448
建設仮勘定	12	124
無形固定資産	479	217
商標権	137	119
ソフトウェア	305	11
その他	36	87
投資その他の資産	13,001	13,078
投資有価証券	458	1,129
関係会社株式	3,833	3,851
敷金・保証金	95	95
関係会社社長貸付金	7,570	6,989
繰延税金資産	991	963
その他	77	90
貸倒引当金	△ 26	△ 41
資産合計	16,983	18,380

負債の部		
科目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
流動負債	5,086	6,143
短期借入金	1,753	1,595
1年内返済予定の長期借入金	2,981	4,287
未払金	160	166
未払法人税等	6	7
未払費用	51	47
賞与引当金	5	7
その他	127	30
固定資産	6,223	6,524
長期借入金	5,813	6,446
その他	410	78
負債合計	11,309	12,667

純資産の部		
科目	前期末 2009年3月31日	当期末 2010年3月31日
株主資本	5,643	5,688
資本金	2,739	2,752
資本剰余金	2,742	2,754
利益剰余金	163	183
自己株式	△ 1	△ 1
評価・換算差額等	△ 52	△ 73
新株予約権 ※1	83	97
純資産合計	5,673	5,712
負債純資産合計	16,983	18,380

単体損益計算書 単位:百万円

科 目	前期	当期
	2009年3月31日	2010年3月31日
売上高	1,139	1,326
売上原価	—	—
売上総利益	1,139	1,326
販売費及び一般管理費	845	929
営業利益	293	396
営業外収益	241	244
営業外費用	229	245
経常利益	305	396
特別利益	28	16
特別損失	548	323
税引前当期純利益	△ 213	89
法人税、住民税及び事業税	△ 236	△ 121
法人税等調整額	△ 141	69
当期純利益	163	141

単体株主資本等変動計算書 2009年4月1日～2010年3月31日 単位:百万円

科 目	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日 残高	2,739	2,742	163	△ 1	5,643	△ 52	83	5,673
当期変動額								
新株の発行	12	12			25			25
剰余金の配当			△ 121		△ 121			△ 121
当期純利益			141		141			141
株主資本以外の項目の当期変動額						△ 20	14	△ 6
当期変動額合計	12	12	20	—	45	△ 20	14	39
2010年3月31日 残高	2,752	2,754	183	△ 1	5,688	△ 73	97	5,712

株式の状況

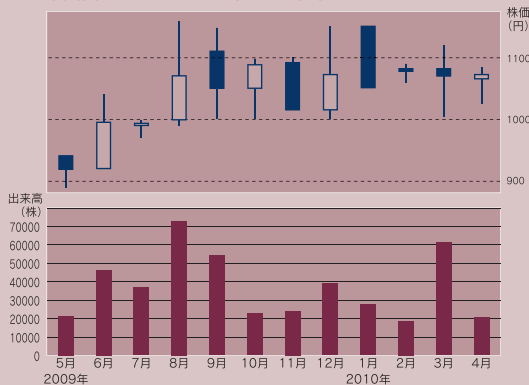
(2010年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	80,000,000株
発行済株式の総数	24,287,200株
株主数	1,299名
1単元の株式数	100株

大株主

株主名	持株数	出資比率
横川 紀夫	3,555,000株	14.64%
アサヒビール株式会社	3,192,000株	13.14%
株式会社J・M・T	2,078,100株	8.56%
株式会社HSM	1,879,900株	7.74%
株式会社W&E	1,875,000株	7.72%
株式会社エス・エイチ・コーポレーション	1,701,800株	7.01%
株式会社エム・ティ・ケイ	1,520,000株	6.26%
株式会社大光	710,000株	2.92%
大関株式会社	615,000株	2.53%
株式会社イフ	380,000株	1.56%

株価および売買高の推移



株主メモ

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

毎年6月開催

基準日

毎年3月末日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先

〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先

☎.0120-176-417

インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法

当社のホームページに掲載します。
<http://www.via-hd.co.jp/>

上場証券取引所

大阪証券取引所 (JASDAQ市場)

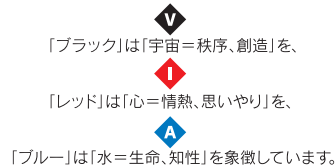
CORPORATE IDENTITY コーポレート アイデンティティ



VIA HOLDINGS INC.
株式会社 ヴィア・ホールディングス

シンボルマーク

人類の叡智の結晶「ピラミッド」をモチーフに、
「総合力」「結束力」「永続性」「上昇」「大志」を表現しています。
またシンボルカラーの



ネーミング

VIAとは、「Valuable & Imaginative Addition」の頭文字の略称です。直訳すると「価値の高い、創造力に富んだ付加」、言い換えれば「世の中により新しい価値を創造していく」という意味を表しています。またVIAという言葉は、英語で「～経由で、～を媒介として」という意味を、ラテン語で「道」という意味を持ちます。これらの意味を合わせて、VIAという社名に「私たち独自の力を通して、世の中により新しい価値を創造し、未来への道を切りひらいていく」という意志を込めています。

GROUP PHILOSOPHY (グループ理念)

心が響き合う価値の創造

- ◆私たちは、卓越した先見力とマネジメント力により、グループ企業の専門力を相互に高め、ノウハウを統合し、革新的なライフカルチャーの創造を推進します。
- ◆私たちは、顧客の「心のニーズ」に応え、喜びと感動

に満ちた新しい価値のイノベーションに果敢に取り組みます。

- ◆私たちは、創造力・自立心・情熱を中心とした「人間力」を最も大切な資産と位置づけ、その力が最大限に成長・発揮できる環境をつくります。

GROUP MISSION (グループミッション)

- ◆私たちは、顧客満足の最大化を第一の目的とします。
- ◆私たちは、オープンで公正な企業カルチャーの構築を通して、社員の生きがいや幸せの実現に努めます。
- ◆私たちは、取引先と公平で健全な関係を築き、お互いの大いなる成長を目指します。

◆私たちは、偽りのない情報の公開や安心・安全の確保、環境保護への配慮など、確固とした企業倫理を確立し、社会の一員としての責務を果たします。

- ◆私たちは、株主に対する利益還元増大と、株価の維持・上昇に努めます。

会社概要 (2010年3月31日現在)

商号	株式会社ヴィア・ホールディングス VIA HOLDINGS INC.
所在地	〒112-0014 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F TEL.03-5155-6801
代表者	横川紀夫 大場典彦
設立	1948年2月26日
資本金	27.5億円
従業員数	18名

役員 (2010年3月31日現在)

代表取締役会長	横川紀夫
取締役副会長	三甲野隆優
代表取締役社長	大場典彦
取締役	能仁一朗
取締役	今井将和
取締役	高田弘明
常勤監査役	正部一行
監査役	河村博旨
監査役	岩村誠之

当社グループの従業員数

事業の種類	従業員数
外食事業	847名 (3,084名)
印刷・流通事業	103名 (27名)
その他	18名 (1名)
合計	968名 (3,112名)

※従業員数には、使用人兼務取締役は含まれておりません。
※従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(契約社員、準社員)は、1日8時間換算による年間の平均人員を()外数で記載しております。

<http://www.via-hd.co.jp>

ホームページではこの事業報告書のほか、ヴィアグループに関する最新情報をリアルタイムで公開しております。ぜひご覧ください。

株式会社 **ヴィア・ホールディングス**
〒112-0014 東京都文京区関口1-43-5 新目白ビル4F
TEL.03-5155-6801